

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員は始業時の申し送りの際や、職員会議の中で理念を読み上げるなど、日々唱えている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ホームで夏祭りを開催し、地域の方との交流を深めていきたい。地域の子供会主催の夏祭り等にも参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区民の当ホームの催し物への参加、子供110番、中学生体験実習、訪問看護師実習受入れ等ホームの専門性を生かして役立つよう努めている。	○	認知症相談窓口と、高齢者向け食事教室を開設したい。地域の方が、気軽にお茶を飲みに来れるようなホームにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価の内容や意味について学び、全スタッフで自己評価を行い、弱点である部分の改善意識を常に持ち、日々の改善に努めながらケアに取り組んでいる。	○	常に謙虚な心で現在を見直し、改めるべきは改め、幸いにして長所な部分は更に伸ばし、日々進歩していくホームを目指している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ででた意見はスタッフに伝え、改善内容については検討を行うと共にすぐに実行している。	○	運営推進会議には、社会福祉法人理事長も出席してもらっているが、もっと多くの地区の方の参加を呼びかけ、グループホームや、認知症への理解、地域密着を深めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営者が市の元職員であり、市との連携は密にとれている。また、介護相談員からもアドバイスや、介護での相談を受けている。	○	介護相談員が担当地区を代えられても、親身になってアドバイスを指導してもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議で、経営者による地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度の勉強会を実施した。必要性のある方については、家族、関係機関と相談し適切に対応した。玄関には案内のパンフレットを設置している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、経営者が講師となり虐待関連の勉強会を開くと共に、経営者が特養施設長時に見聞した事例を基に、検討会を行っている。	○	また、講習会に積極的に参加し、随時復命し、研修事項を全職員に伝え、徹底を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	ご家族から契約後の疑問点や、聞き忘れの点などで照会があれば、丁寧に説明し、納得していただいている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会の席では、意見、不満、苦情、要望の発表をホーム側から促し、即答できる点はその場で、検討を要する点は次回で報告することになっている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	職員の異動についてはホーム通信で異動者のプロフィールや写真を掲載し、家族の理解を深めている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族が、管理者や職員に気軽に意見を言う雰囲気が出ている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	職員間で、他の意見に対する批評や評価はタブーとし、建設的な意見の発表の場としている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	人事異動や他のユニット勤務を定期的に組み、利用者様と馴染みの関係を構築し、緊急時対応を容易にしている。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	経営者は職員の定着化に腐心し、決算期(3月)のボーナス支給や、悩み事等の相談にのるなど、職場環境の改善に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	各職員のキャリアに応じた研修に全職員が参加できるようにしている。またOJTも適宜行っている。	○	介護福祉士資格者や、認知症実践者研修修了者も年々増えている。これからはスタッフの取得したい資格の希望を聞きながら、ホームとしてサポートしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	病院系列の他グループホームとの相互訪問を行ったり、地域内のデイサービスとの月例行事にも招待され、交流・意見交換により、理論や技術の向上が図られている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	食事会を度々催すなど、全スタッフの状況の把握に努めている。運営者は最少限1日1回は全職員に声掛けし、心身の健康状態を把握し、少しでも異常が発見できればその解消に努めている。	○	ストレスの緩和のため、全スタッフに花の寄植えやハンキングを贈った。また、経営者が無農薬有機野菜を栽培しており、職員にも持ち帰ってもらっている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	決め細やかな対応をして働く意欲のバックアップをし、キャリアパスに供ない手当てを支給している。スタッフの子ども等の相談をよく受け、食事会等を行ったりしている。	○	更なる事業の拡大を模索し、事業の安定化、給与処遇の改善も図っていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の会話の中から、その方の心身の状態・不安・希望を尋ね受け止め、特に希望(逢いたい人・行きたい処)を叶えるように努めている。また、家族のいない利用者様の墓参り等にも同行し、ご本人の希望に添えるようにしている。	○	行方不明の息子さんがいる利用者様がおられ、警察等の関係機関にも相談し、会うことができるよう努めたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	意見交換や説明をし、ホームの実態を見て頂いた上で、早くホームでその方らしい、安穏な生活が送れるように、アドバイスやお手伝いをして、安心して頂いている。	○	アットホームな雰囲気づくりに努めており、見学の方からは、ホームが和やかだという意見をよくいただく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各人に対する支援のあり方は千差万別であり、きめ細やか対応をしている。「人工透析」の方の入所にあたっては、輸送サービス事業者の紹介、医療機関との連絡調整を図った。看取りを行ったときに主治医と相談し、訪問看護ステーションを24時間体制で利用した。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には本人、家族に先ず見学をしていただき、充分納得の上で入所されている。不安な方へは、面会を頻回にさせていただいたり、電話で会話していただいたりしている。また、今までの生活歴や趣味等の情報を家族から聞き、不安のないホームの生活が送れるようサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様から学ぶことは多くある。これからも共に笑い、共に泣き、共に楽しんで一緒に生活していける家族にいたい。管理者は30代と孫世代にあたるが、実祖父母に接しているような感情をいただく時もある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	小旅行や歌などのボランティアのホーム訪問も企画し、ご家族の来所を促して、ご本人と接する機会を創出している。家族の来所の折りは、ご本人の近況を説明している。	○	遠方の家族には1か月の出来事、写真を同封したり、電子メールでもお知らせしている。家族と交換日記のやりとりをしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族の関係は、入所前の生き様により濃淡や親密度が微妙に異なり、柔軟な対応が必要である。ご本人と家族の関係がより円滑になるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の協力のもと面会はよくある。気楽に訪問できるよう、職員も笑顔で対応している。	○	希薄になった知人もおられるので、手紙等で逢える回数を増やしていきたい。また昔暮らしていた場所や友人を訪ねる回数を設けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者様同士の相性を把握したうえで、親しく交流が出来るよう職員がきっかけ作りをしている。お互いの体調をいたわり、出来ることを手伝うなど良い関係が出来ている。	○	笑顔の挨拶から始まり、皆が一つの輪(和)になれるように、黒子として徹していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した方との家族と交流があり、面会を希望されたら訪問するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のなかから、希望を把握し、実現に向けて努力している。また、希望を表せない方には、家族や知人からの情報収集を行い、夢、希望が叶うようサポートしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、センター方式の活用、その都度ご本人や家族に尋ね、把握してケアに努めている。	○	人は老いるに従って保守的になり、従来の習慣、価値観を固守する傾向にあることから、利用者様個々人の生活歴等を参考にし、入所前の生活の延長上にホームでの生活がある様に、サポートしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理なく有する力が発揮できるよう、また、その方の潜在力も探りながら行っている。	○	家族より「母(父)にはまだ、こんな力が残ってたんですね」と感動されることが多い。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者様ごとの担当者を中心に、職員全員で検討している。家族とは訪問時に話し合うようにしている。必要があるときは主治医等と連絡を取り計画に反映させている。	○	本人の思いを具体的に盛り込んだ介護計画にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに評価見直しを行ない、次の計画に反映させている。大きな変化のあるときは、ご家族に相談し、必要な手続きをして、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとに体温、血圧、食事、水分量、排泄状況、心身の状況を毎日記録し職員で共有するとともに、定例の会議で話し合い次の介護計画に生かしている。	○	記録の様式、記入方法等に日々工夫を重ね、情報の伝達がスムーズに行くよう努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の遠方からの来所の場合、泊まれる部屋を用意している。 姉妹施設「大河」は集会場が広く、合同で催し等をしている。 利用者様、家族共親しく接している。	○	勤務体制等の課題はあるが、学習療法を本格的に導入したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア等の慰問はよくある。保育園との交流は年4～5回あり、これからも継続していきたい。 県看護師会や、赤江東中学校生の体験学習を受け入れ、利用者様にも快い刺激となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向を尊重し、十分な話し合いをした上で主治医・訪問看護と連携を取り、利用者様の利便を図っている。	○	家族の希望により、家政婦を紹介し、長時間外出された事例もある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在介センターに出向き、ホームの現状や情報を伝えている。逆に問い合わせや訪問もよくある。地域包括支援センターの会合に出席し助言をいただく。 権利擁護制度活用の事例はないが、勉強会は行き、準備は整っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科のあるかかりつけ医との連携は充分にとれており、急な発熱や夜間の受診に対応してもらっている。 個別には定期的に内科、歯科の往診を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科と協力医院提携を行っており、専門的な認知症の治療が期待できる。また、ホーム前の精神科病院が協力医療機関であり、電話で相談に応じてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	経験豊富な正看護師を配置しており、利用者様のバイタルチェック・顔の表情・体幹の状況・眼の表情等を観て健康度をチェックしている。 症状によっては主治医に意見具申をし、専門性を生かして早めの対応が出来る。	○	スタッフの身内の正看護師にも、相談できる体制を整えている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、退院予定日の把握や、早期退院に向けて医師・ケースワーカー・看護師・栄養士と、面会時よく話し合いスムーズに実行が出来る。 認知症が進まないよう毎日のように面会してホームでの生活を話し合った。	○	早期退院になった利用者様の場合は往診・受診により、治療の継続ができており、状態報告書を作成し密な連携がとれている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの理念・指針を説明し、同意書をいただき理解されている。 本人が重度化した場合は、細部にわたり主治医・家族と密に連携をとり合っている。また、職員は研修に参加し、全員で意識の高揚に努めている。	○	ターミナルの利用者様の思い・家族の希望をよく理解し、緩和ケアで2例の看取りをおこなえた。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りまで希望される方が多数おられ、早くから家族と話し合いをしてきた。主治医・訪問看護と連携をとりながら、その人らしい生活を続けられるよう職員全員でケアしている。かかりつけ医と連携を密にし、協力しながら不安・痛みを伴わない終末を迎えられるよう全力で支援していく。	○	事業主が特養の施設長をしている当時に、自らが看取りの指針を定めた経験から、ホームの指針も作成している。安らかな終末期を送られるよう、更なる研修・他グループホームでの実践事例を勉強したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病気による退所事例があり、センター方式や包括式自立支援プログラムでの状況を習得できた。その後も面会時に情報提供をして、その方が安心して療養できるようにした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切にしながら、その方らしく生活できるような理念を掲げ、プライバシーを損ねない対応をしている。また、個人情報とは慎重に取扱い、医療機関等へ情報を開示する時も必要最少限で提供している。	○ 言葉使いには充分留意している。。話すスピード・声のトーン・理解できる短い言葉、ボディールンゲージにも意識して取り組んでいる。利用者様への言葉かけで、ホーム職員以外の関係者に対して経営者が注意した事例もある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活のあらゆる場面での本人の意思の確認を行っている。表現できない方には、非言語コミュニケーションや家族からの希望を聞き、支援を行っている。	○ 現在、脳梗塞の後遺症による半盲の方の、視力回復のために尽力している段階である。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、個々の希望・ペースを大切に、支援している。1日に2～3回も散歩に出かけられる利用者様にも、常に散歩コース、時間を把握し、事故や行方不明の未然防止を図っている。	○ ケア以外の業務をしている時でも、常に利用者様の動向に目や気を配り笑顔で1日を安穩に過ごしていけるよう、ケアをしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の服装・髪型を把握してお洒落をサポートし、外出時にはお化粧を促している。馴染みの美容室でのカット・毛染めを行っている方もいる。	○ まず最低限の身だしなみとして、目脂・髭等は特に注意している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ出来る範囲で調理・片付けに参加していただいている。介助や見守りをしながら職員も一緒に食事をし、会話や食事を楽しめるよう心掛けている。	○ ホームの畑で穫れた、無農薬有機栽培の新鮮な野菜を食卓に提供し、大好評である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな飲み物(コーヒー・紅茶等)を把握し、水分摂取量を増やしている。ドクターストップのない方には晩酌も楽しんでいただいている。	○ たばこは家族と話し合い「電子たばこ」を使用している。外出の機会に食べたいおやつや食材を購入している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツははずしが出来るよう、時間誘導や排泄サインを見逃さないようにして、自立支援へとつなげている。誘導の声かけにも他の利用者様に気づかれないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の希望を聞き、早めの入浴。遅めの入浴と希望に添えている。 入浴前には体調の確認をしている。	○	寒い季節は、暖房で脱衣場を温め、血圧の急上昇を防止すると共に、入浴の楽しみを感じてもらう様な会話に努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるよう、日中の運動やレクリエーション等行い、無理のないよう快い刺激のある1日を送っていただいている。また、できるだけ睡眠薬等使用しないよう、眠れない方にはナイトミールや安心できる会話等で安眠できるよう支援している。	○	ラベンダーのアロマは安眠効果があるようなので、試している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方が喪失感を抱かないように、出来る事、もう出来ない事を把握し、一緒に楽しく行っている。 職員からの働きかけだけでなく、利用者様同士手を貸したり、声を掛け合うなど助け合う場面もみられる。	○	ベランダで自分の洗濯物を取り入れるなど、その方に残されている潜在力を活かしていきたい。 カラオケの曲に合わせて歌を楽しまれる利用者様が多い。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態、希望に応じて支援している。買い物に行った際は、自身でお金を持っていただき、自身のお金で買い物できる楽しみを持っていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鍵を掛けず、いつでも出たい時に出れるよう戸外支援を行っている。 日に何度も散歩に出かける。昼食後の散歩で外の空気に触れる、帰宅願望が強い時に外に出て気分転換をするなど家族と墓参り、ドライブに出かけられる。	○	交通事故等の心配のない方が遠距離に散歩へ行かれる時は、携帯GPSを用い、現在位置の検索を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回のホテルでの食事が好評であった。これからも、近所の買い物だけではなく、行動範囲を拡げて生きたい。	○	遠距離は体力的に無理な方が多いため、近くの公園での花見や、神社詣でをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はしたい時にしていただいている。最近逢っていない友人などには、スタッフから促し電話をしていただいている。	○	どうしても声が聞きたいとの願望が強いが留守の場合は、スタッフが家族に成り代わり会話を行って、安心してもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の面会時にはお茶を用意し、最近の喜ばれたこと等を伝え、団欒していただいている。 他の利用者様も話に加わり歌・笑いがたえない。	○	ホームの周囲は四季折々の花が絶えず、訪問者を温かく迎える環境づくりに配慮しており、訪問は原則自由である。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一昨年に向精神薬の副作用により、他傷・自傷の恐れがあった為、事前に家族にも相談し、切迫性、代替性の有無をよく精査して、一時的に拘束を行った事例を全員で学習し、拘束をしないケアの実践に努めている。	○	経営者が講師となり、身体拘束ゼロの実現に向けて研鑽を重ねている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は絶対にかかけず、外出は自由にできる。センサーで対応し職員はこまめに、所在確認を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は各人の生活のサイクルや、行動パターンを把握しており、安全に充分配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活が自然に出来るように配慮し、スタッフ側で責任をもち、保管・管理に取り組んでいる。	○	包丁は見えにくいところの箱の中へ、洗剤・漂白剤等は棚の中や、高い位置の戸棚に置き、事故が起きないように努めている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定例の会議、日々の個別記録を参考に、申し送り時を利用して職員で話し合い、対策を共有している。 普通救命講習を受講し、万一事故が起きても早急に対応できる体制にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習を受講しているスタッフを配置している。全員が受講できるよう年次計画を定めている。マニュアルは作成している。	○	AEDを設置し、研修を受けている。利用者様に実際に使用した。 正看護師を中心にした、マニュアルの見直し、定期的な訓練をしていきたい。 火災通報装置・火災報知設備工事は終わっており、今年度はスプリンクラーを設置することになっている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	甲種防火管理者による火災時避難訓練も、毎月行い、様々なシチュエーションを想定し訓練している。ベランダから非難できる滑り台や、玄関の車椅子用スロープも設置し、迅速かつ安全に避難できるようにした。 地震・水害の避難先は南部体育館であるが、ホーム前にある病院を想定している。	○	地域の方に参加していただき、避難訓練を実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒・他利用者様との争いなど一人ひとり様々なリスクがあることを家族に説明し、理解をしていただいている。 連絡先の確認など細かく話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	よく観察し、バイタルチェックも毎朝行っている。異常があれば、すぐに看護師・家族・かかりつけ医に連絡をし、早期対応ができています。身体の異常を表せない方のサイレントアピールにも注意している。	○	豊富な経験と的確な判断のできる正看護師が、OJT、職員会議を通して職員を指導し、医学の知識向上が図られた。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイル・見て確認できる薬の見本表を作成している。服薬介助の際にも必ず呼称を行い、誤薬・服薬もれ・きちんと服薬できているか(落薬はないか)確認している。	○	副作用においては、医師・薬剤師から教えてもらい熟知できている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録表、便秘日数表を作成し、便秘が続く方には、看護師・主治医に連絡し、下剤の調整をしている。 水分摂取、食事の工夫を行い、日中は散歩や体操など活動的に過ごすよう気を付けている。	○	献立に繊維質も含むもの、ヨーグルト・牛乳、適度な運動、水分摂取量に注意している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔清掃の励行、歯科衛生士による口腔ケアや、スタッフに対しブラッシングの指導を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・カロリー・水分摂取量を記入し過不足がないように注意している。また、栄養士よりカリウム・タンパク・塩分制限のある利用者様への栄養指導を受けている。	○	水分摂取量の少ない方には、好きな飲み物を把握し、1日1500ccを越えるよう支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様・スタッフ共にインフルエンザの予防接種は行っている。また、外出から帰宅した際は、手洗い・うがいの励行を行っている。感染症マニュアルも作成している。	○	夜勤者は漂白剤で玄関のノブ、室内の手すり等を毎晩ふいている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入し、作りおきはしない等保存に気を配っている。食器・調理器具の洗浄は丁寧に行い、食器乾燥機を使用。まな板・布巾等は、毎晩ハイター使用し、調理器具の消毒を行っている。	○	ホームの家庭菜園で採れた、新鮮かつ無農薬野菜を食べていただいております、利用者様の皆様には大好評である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの周りには、四季の花々が咲き、利用者様・家族・地域の方にも感動を与えている。	○	家族・近隣の人達に無農薬野菜を持ち帰っていただいている。近隣の人達からはホームにない物を頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾り、利用者様に生けていただいている。3月には雛飾り・5月には節句の鎧兜のタペストリーを飾り、季節の歌も壁に貼り、自然と利用者様がロゾさんでいる。	○	ホーム周りに咲いている花を食堂に飾り、季節を感じてもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での定位置がそれぞれ落ち着く場所になっている。食堂にソファ・ウッドデッキにはベンチを置き気の合う仲間の団欒場として利用されている。	○	ホームの周囲は自然豊かであり、四季の移ろいが肌で感じられる立地条件にある。利用者様は、その自然を個人であるいは仲間と堪能いただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持ち込んで居心地よくしてもらっている。家族の写真や好きな絵を飾り本人らしさが出ている。又、配偶者の亡くなった方の居室には仏壇を持ってきて、毎朝お茶を供えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気をつけ、空気清浄機を2台おき、匂い・よどみがおきないように、注意している。冷暖房については極端に暖かかったり、冷えたりしないようにしている。季節に合った衣類や冬はひざ掛けをするなど工夫している。	○	ホームは集落の中にあるが、四方は田と畑であり風通しがよい。 アロマは心安らぎ・安眠の効果があるので、アロマポットを購入し、使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりを設置している。これからも利用者様の身体や認知の状態にあわせて、建物内外の改修を行い、自立支援・事故防止に努めたい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室にはプレートをつけ混乱や失敗を事前に防止している。食卓には各自の名前を書いてわかりやすくしている。	○	現在、絵の上手な職員に似顔絵を描いてもらい、居室入り口に貼って混乱されるのを防いでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物に隣接したところには畑があり、利用者様は野菜の成長を楽しみにし、新鮮な野菜が日々の食卓に上がっている。周囲には花が育てられ利用者様や訪問者の気持ちを和ませている。ベランダでは皆で洗濯物を干している。	○	外の空気に触れ、ベランダでの食事、ティータイムなど施設の条件を生かした豊かな時間をもてるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 食の安全、食べる楽しみを満足していただけるための努力。

「年輪」は約60坪、姉妹施設の「大河」には約110坪の家庭菜園がある。高齢者にとっては、食べるのが最大の楽しみであることから、無農薬有機栽培の新鮮な美味しい食材を提供している。

2. 一年中花の絶えない環境の創出。

施設周囲には沢山の四季の花々を植え、心の栄養剤としている。花の香りがホームに安らぎを与えている。

3. 職員の定着率を高める。

職員が働き甲斐を感じる事が、利用者様への良好な接遇につながる事から、職場環境、人間関係、福利厚生の実に努めると共に、各職員のキャリアアップをサポートして資質の向上を図り、結果として定着率を高めていきたい。